

Corridart

[コリダール]

横須賀美術館ニュース「Corridart」vol.24
発行：横須賀美術館 〒239-0813 横須賀市鴨居4-1
Tel.046-845-1211 Fax.046-845-1216
URL <https://www.yokosuka-moa.jp/>

横須賀美術館ニュース
NEWS FROM YOKOSUKA MUSEUM OF ART

2019.7
volume.

24

「Corridart」(コリダール)とは、corridor(回廊)とart(美術)の二つのフランス語を合わせた造語です。横須賀美術館地階の回廊型のギャラリーにちなんで名づけられました。

[特集]

せなけいこの絵本作りQ&A
「ねないごだれだ」誕生50周年記念
せなけいこ展

[INTERVIEW]

2019年度第2期所蔵品展 特集
高木修
SPECIFIC SPACE ~特異な空間へ~
INTERVIEW 高木修

[この1点]

朝井閑右衛門
《薔薇(嘉靖青花唐子紋中壺)〈絶筆〉》

[お知らせ]

「横須賀応援!ふるさと納税」で、
美術館を応援しよう!

編集:横須賀美術館/令和元年7月発行

デザイン:tegusu Inc.

印刷:株式会社ライブアートブックス

*このニュースは10,000枚作成し、

1枚あたりの印刷費は約39.7円です

横須賀美術館の情報は
公式TwitterやFacebookでも
ご覧いただけます。



「横須賀市応援!ふるさと納税」で、 美術館を応援しよう!

今年4月から、横須賀美術館のコレクションを充実させるための「美術品等取得基金」が開設されました。この「基金」には、みなさまからの寄附金が積み立てられ、美術作品の購入に充てられます。さらに楽しく、新しい展示を実現するため、みなさまのあたたかい応援をお待ちしています。

寄附のしかた

1. サイトにアクセス

インターネット検索で「横須賀 ふるさとチョイス」または「横須賀 ふるぽ」と入力検索してください。



2. 寄附先を選択

寄附先を「横須賀市」、使い道を「美術品等取得基金」にそれぞれご指定ください。

※申込方法について、くわしくはそれぞれのホームページで確認してください。



3. ポイントをもらおう

ふるさと納税の制度を利用して寄附をすると、金額に応じたポイントが受け取れます。

(ただし、ポイントは横須賀市外にお住まいの方のみ対象。横須賀市民の方は、寄附控除のみ受けられます。)



4. 記念品と交換

ポイントは、記念品と交換できます。

※記念品で横須賀美術館提供のメニューを選んでも、それだけでは寄附金は「基金」に積み立てられません。「寄附金の使い道を選ぶ」のページで、「美術品等取得基金」をご指定ください。



この
1点

朝井閑右衛門

《薔薇(嘉靖青花唐子紋中壺)〈絶筆〉》

1983年 油彩・画布 当館蔵



本作は画家・朝井閑右衛門(1901-1983)の絶筆です。画面に近づくかたちが判別できないほど独特の厚塗りとうねりで、生けてある薔薇も落ちていく薔薇も壺も一体となった力強い作品です。朝井は20代の頃から多くの薔薇を描き、亡くなった後のアトリエにも描きかけの薔薇の絵がいくつも残されていました。露地ものを好み、自宅の庭にも植えていたが、最晩年は温室もどったそうです。壺に入れた薔薇をそのまま絵にしているわけではなく、気に入った薔薇のデッサンや彩描をし、再構成して油彩にすることが多いです。(門倉芳枝「思い出すことなど」求龍堂、2002年、206~212、285頁。)

さて、本作のもう一つの重要な要素は花を挿している壺です。タイトルの「嘉靖青花唐子紋中壺」からは、中国・明時代の唐子紋の染付(青花)であることが分かります。雑誌「陶説」に朝井は何度もエッセイを寄せており、薔薇と壺についても書いているので引用します。

「戦後バラの花を続けて描いてみる。バラの花も花だが、気に入った壺が手に入れば、絵はもう出来たも同じである。好い壺と取組むと途中は難行しても必ず絵は出来上る。だからよい壺が実に欲しい。(中略)もう永年私は壺を買うのに何から何迄気に入ったといふ訳にはゆかないので、何処かほんの一区画絵になる処があればそれに満足して買うことにして居る。」(「戦後バラの花を続けて描いて居る」『陶説』58、1958年1月)

こうした文章に書き残しているように、朝井は陶磁やガラスなど器を熱心にコレクションしており、作品にししばしば収集した器を描いていました。また器を日常的に使用するほか、アトリエに置いたり筆入れにして楽しんでいました。つまり収集そのものが目的ではなく、身の回りにおき、制作へのインスピレーションをわかせることが重要でした。収集していた器類は写真が残っており、作品の形状や絵柄、種別から、本作のモデルとなった壺は彼の手元にあったことが分かります。

朝井は自らがこだわって設計したアトリエや庭に、大切に集めた器、人形、世界の様々なおもちゃ、布、書籍、燈籠などを並べ、住空間そのものが作品でした。最後に残った薔薇も、朝井が生涯をかけて作り上げた世界が映し出されています。(学芸員・工藤香澄)

横須賀美術館の所蔵作品の中から、今回の「この1点」を選んだ学芸員がくわしく紹介するコーナーです。

Q1 どんな紙をつかっていたの？

A 現在も手元に残っている紙を見てみると、買ったものよりも、どこかの店の包装紙や折り込みチラシ、銀行や証券会社の封筒など、身近にある紙が目につきます。かわいい包装紙を手に入れるために特定の店で買い物したり、本はどこで買っても内容は同じなので、本屋さん選びはその店のブックカバーで決めたり、お菓子の味はさることながら、包み紙が後で使えるかどうかを考えたり、中身よりもそれを包む紙を重視して買い物をする傾向があったようです。



せなけいこの 絵本作り

Q & A



せなけいこの「絵本」の制作風景

赤い口をニヤッと開けて、黄色い猫目をギョロリとさせて、胸のあたりで細い手をだらりと下げた真っ白なおばけ…といえば、せなけいこの絵本『ねないこだれだ』のおばけです。幼い頃、「おばけになってとんでいけ」のラストページに恐れおのいた人も少なくないのでは？さて、そのおばけの輪郭をよく見ると、紙をちぎって作られたことがわかります。ここでは、せなけいこがどのように絵本をつくっていたのか、Q&Aでご案内します。

Q4 こだわって いたところは？

A 気に入らなかつたら何度でもやり直しがきくところが、貼り絵の便利なところであり、面白いところだと思ったそうです。いろいろな紙を当てて、色合わせができることも気に入っていたとか。童画家の武井武雄に、貼り絵をやるときには、描いたように貼っちゃいけない、と言われたことを肝に銘じ、あまり直線的な線で切ったりせず、貼り絵の面白味を残すよう心掛けていたそうです。



「メロウ アイランド民話」(2011年、ポプラ社) 幻燈のために制作した作品を、2011年に再制作した。

Q5 貼り絵で 大変なところは？

A 絵具とちがって、色をつくるのができないので、望んだ色や柄の紙を、手持ちの紙のなかから見つかるまで探すか、お店に買いにいくしかありませんでした。また、絵本を一冊つくる時、登場するキャラクターの表情がとても大事になってくるので、制作中は顔は描かず、最後にいっきに顔(表情)を仕上げるようにしていました。



「もじゃもじゃ」(1969年、福音館書店)

Q2 だれが 着ていたものかな？

Q 赤い タータンチェック

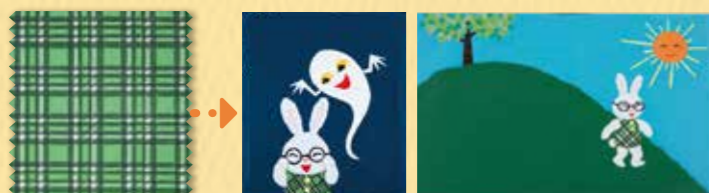
A ルルちゃん



「ルルちゃんのくつした」(1972年、福音館書店)

Q 緑の タータンチェック

A めがねうさぎ



「めがねうさぎ」(1975年、ポプラ社)

Q 鹿子絞り

A ろくろくび



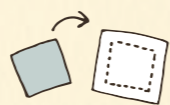
左から「はげものづかい」(1974年、童心社)、「ろくろくび」(1994年、童心社)

Q3 どうやって 作っていたの？

A こんな手順で作っていたよ！

1 台紙をつくる

背景となる色画用紙と、それよりもひとまわり小さいボール紙を用意する。ボール紙に色画用紙を重ねたら、その端をボール紙に張りつけて台紙をつくる。



2 下絵を描く

身近にある紙(折り込みチラシの裏面や原稿用紙)に下絵を描く。



3 下絵を写す

下絵の上にトレーシングペーパーを重ねて、トレーシングペーパーに下絵を写し取る。



4 用紙に跡をつける

原画に使用する紙の上にトレーシングペーパーを重ねて、写し取った下絵の線を硬めの鉛筆で上からなぞって、紙に跡をつける。



5 切り抜く

線の跡がついたところを手でちぎったり、ハサミで切ったりしながら、モチーフをつくっていく。手でちぎるか、ハサミで切るかは、その場面や絵柄を見ながら決めることが多い。強調したい線はまっすぐハサミで切るが、手でちぎった線が柔らかいとは限らない。



6 台紙に跡をつける

台紙に下絵を写し取ったトレーシングペーパーを重ねて、⑤で作ったものを貼り付ける位置を決めたら、2Hや3Hくらいの硬めの鉛筆でなぞって台紙に跡をつける。



7 台紙に紙を貼る

台紙に⑤で切り取った紙を貼る。



「おばけのてんぷら」(1976年、ポプラ社)

中学生以下無料!

『ねないこだれだ』誕生50周年記念 せなけいこ展

本展では、代表作のひとつ『ねないこだれだ』の誕生50周年を記念し、絵本デビュー作の「いやだいやだの絵本」4冊シリーズをはじめとする、絵本原画など約300点を出品。これまであまり知られていなかった、絵本作家デビュー前の幻燈や紙芝居の仕事も紹介し、作家せなけいこの創作の全貌をあきらかにします。会場には、絵本コーナーなど楽しい仕掛けもあり、小さなお子さんにも楽しめる展覧会です。

開催日 7月6日(土)～9月1日(日)

開館時間 10:00～18:00

休館日 8月5日(月)

観覧料 一般1000(800)円、高校生・65歳以上800(640)円

* ()内は20名以上の団体料金

* 高校生(市内在住または在学に限る)は無料

* 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添の方1名様は無料

主催 横須賀美術館、朝日新聞社

後援 一般社団法人日本国際児童書評議会、絵本学会

協力 信成社、KADOKAWA、金の星社、鈴屋出版、童心社、福音館書店、ポプラ社



高木 修

Takagi Shu

SPECIFIC SPACE —特異な空間へ—

ただいま、展覧会に向けて新作の制作を行っている高木さん。今回は、横須賀市内の住まい兼アトリエを訪ね、いろいろとお話を伺いました。



アトリエの書棚には、美術書はもちろん、哲学書や建築関係の本が天井までびっしりと収められています。

PROFILE

高木修(1944~)は、1971年、高松次郎が主宰する「塾」に学び、創作活動を開始します。その後、哲学者・市川浩に師事し、金属を主とした立体造形作品の発表のみならず、自らの身体を用いたパフォーマンスや、様々なプロジェクトを行ってきました。その作品は、初期から一貫して、空間や自身を取り巻く環境を意識したものです。1996年からは横須賀に移り、現在は、個展と美術家グループ(ABST)を中心に活動を行っています。本展では、新作2点を中心に近作を交え、高木の研ぎ澄まされた感性によって生み出された「特異な空間」をご覧いただきます。

— 展覧会の開催が決まり、高木さんには、何度か横須賀美術館に足を運んでいただいています、どのような印象をお持ちになりましたか。

まず、海と森がある(美術館が立地する)観音崎の自然環境は、いつ来ても素晴らしいですね。館内は、全体が白で統一されていて、落ち着きがあります。私の好きな言葉に「Less is more(より少ないことは、より豊かなこと)」という有名な建築家の言葉がありますが、装飾性のないシンプルな空間はたいへん私好みです。

— 今回の横須賀美術館での展覧会は、吹き抜けがある地下の所蔵品展示室の北側ギャラリーでの開催です。

開放感のある高い吹き抜けの展示空間はもちろん、館内に入ってすぐのブリッジからここ(北側ギャラリー)を見下ろせるのは、とてもおもしろいですね。また、対照的に天井と壁に囲まれた展示空間(展示室8)もあつたりと、難しさもありますが、それ以上にとても魅力的に感じています。

— 今回の展覧会タイトルに「SPECIFIC SPACE ~特異な空間へ~」とありますが、これは、師事した哲学者の市川浩先生*からのお言葉と聞いていますが。

これは、市川浩先生に、私の作品を「空間の特異性」と評していただいたから、以来、この言葉を自身の仕事に使っています。私は制作において、その場所や空間に対して、作品がどのような働きかけがあるかということを意識しています。作品をどのように制作したかではなく、制作した作品がどのように空間に立ち現れたかを重要としています。そこには、逆に空間が作品に働きかけるという相互関係もあり、加えて鑑賞者(受け手)と制作者である私をも取り込んだ「新しい空間性」=「特異な空間」をいかにしてつくるかにあります。

— 高木さんの作品は、空間や鑑賞者を圧倒するような大作ではありません。だからこそ、空間との相互関係が築けるとともに、鑑賞者である私たちは、自然とその空間に入っていけるのですね。

私は制作する際、自身の身体範囲を意識しています。そうするとモニュメントでもオブジェでもなく、その中間のサイズ、高さで言えば140センチぐらいになってくるんですね。

あわせて「軽やかさ」も意識しています。私は多くの作品に鉄を用いています。鉄を使えば、大きく厚重感のある作品はある程度だれでも作れます。私はあえて、重い鉄を使いながらも、軽さを出していければと考えています。

— 今回の展覧会では、新作2点も出品されるとのことですが、制作のほうはいかがでしょう?

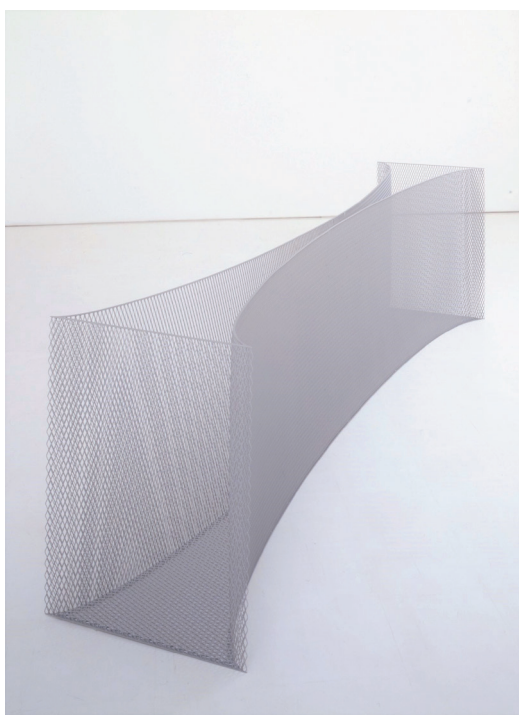
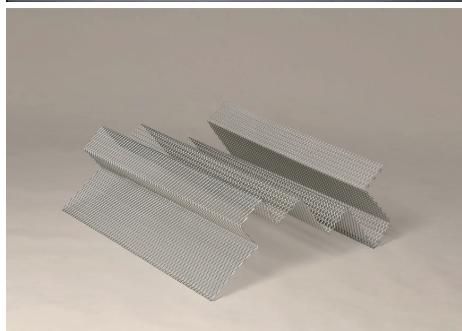
周囲の期待も高く、プレッシャーではありますが、展覧会に向けてがんばっています(笑)。

ぜひ、多くの人に見ていただければと思います。

— 今日はお忙しいなか、どうもありがとうございました。

*市川浩(1931~2002)身体論で知られる哲学者。

(取材は5月中旬に行いました。)



左上:《Untitled》2000年 作家蔵 左下:《Untitled》2007年 小杉放電記念日光美術館 右:《Untitled》2007年 宇都宮美術館

展覧会情報

| | |
|---|--|
| 会期 | 2019年7月13日(土)~9月29日(日) 10:00~18:00 |
| 休館日 | 8月5日(月)、9月2日(月) |
| 観覧料 | 一般310(250)円、高大生・65歳以上210(160)円、中学生以下無料 |
| ※()内は20名以上の団体料金 ※企画展のチケットで、所蔵品展・谷内六郎館もご覧いただけます。※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添い1名様、高校生(市内在住在学に限り)は無料 | |

高木修展関連ワークショップ

「空間を表現してみよう!」

「空間」ってなんだろう? 「空間」について、本展作家 高木修といっしょに画用紙を使って創作しながら考えてみましょう。空間デザインや建築に興味がある方の参加もお待ちしております。(創作を行い講評後、高木修展を鑑賞します。)

| | |
|-----|------------------------------------|
| 会期 | 2019年9月7日(土) 14:00~(約1時間30分を予定) |
| 場所 | 美術館ワークショップ室 |
| 対象 | 小学3年生以上のどなたでも |
| 定員 | 15名(申込制) |
| 参加費 | 300円(要観覧券) |

※詳細及びお申込方法は、美術館HPをご覧ください。